DIGITAL PIANO

J-8000

取扱説明書

JA

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

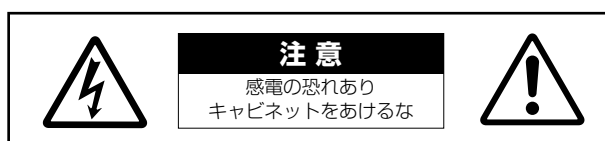
■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。

これは、以下の内容の注意を喚起するものです。
「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。この製品の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。」

(1)B-16 1/4

⚠ 警告

電源 / 電源コード

必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。

必ず実行

電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。
他の電源コード/プラグを使用すると、発熱や感電の原因になります。

禁止

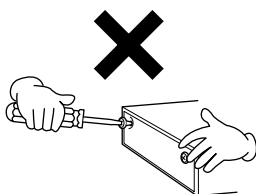
電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

分解禁止

禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。

水に注意

禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。
感電や火災、または故障の原因になります。

禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意

禁止

本体の上にろうそくなど火気のあるものを置かない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら

必ず実行

電源コード/プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なにおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源コード

必ず実行

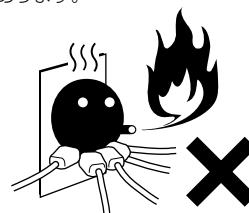
電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電や火災、故障の原因になることがあります。

禁止

たこ足配線をしない。
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。

(1)B-16 2/4

組み立て

組み立てる前に、必ず本書の組み立て方の説明をよくお読みください。
手順どおりに正しく組み立てないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置

直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しない。
本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。

テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。
楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。

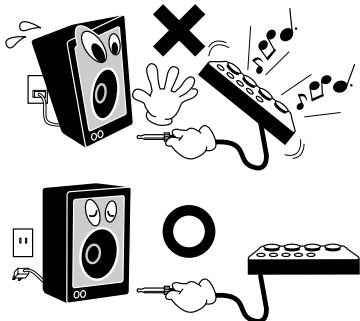
不安定な場所に置かない。
本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。
コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。

この機器を電源コンセントの近くに設置する。
電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

接続

他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。
感電または機器の損傷の原因になることがあります。

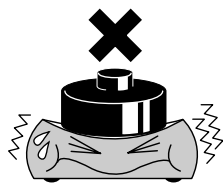
手入れ

本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。
本体のパネルや鍵盤が変色/ 変質する原因になります。お手入れには、乾いた柔らかい布、もしくは水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。

使用時の注意

キーカバーで指などをはさまないように注意する。また、キーカバーや本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。

キーカバーやパネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。

本体の上にのったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

(1)B-16 3/4

イス

禁止

不安定な場所に置かない。
イスが転倒して、お客様や他の方々がけがをする原因になります。

禁止

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。
このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。

禁止

イスには二人以上ですわらない。
イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。

必ず実行

イスのネジを定期的に締め直す。
イスを長期間使用すると、イスのネジがゆるむことがあります。ネジがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

必ず実行

イスの脚で床やたたみを傷つけないよう注意する。
イスの脚でフローリングの床やたたみを傷つけることがあります。イスの下にマットを敷くなどして、床やたたみを保護されることをおすすめします。

禁止

イスを手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。
変色/変質する原因になります。お手入れには、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。

データの保存

必ず実行

データの保存とバックアップ
コンピューターから読み込んだソングデータや自分で録音したソングデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、コンピューター側に保存してください。(P33)

●データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
●不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

* この製品は、JIS C 61000-3-2 に適合しています。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

(1)B-16 4/4

ごあいさつ

このたびはヤマハ J-8000 をお買いもとめいただき、まことにありがとうございます。
この楽器のさまざまな機能を十分に活用するために、この取扱説明書をよくお読みになってからご使用ください。
なお、読み終わったあとも、不明な点が生じた場合に備えて、
保証書とともに大切に保管していただきますようお願いいたします。

取扱説明書（本書）について

取扱説明書（本書）は、「準備」「本編」「付録」の 3 部構成になっています。

- **準　　備**　最初にお読みください。
- **本　　編**　楽器の使い方を詳しく説明しています。
- **付　　録**　「MIDI（ミディ）データフォーマット」などの資料を掲載しています。

表記上の決まり

【　　】の意味

【　　】：パネル上にあるボタン類を示します。この場合、ボタン、ジャック（端子）といった言葉は省略します。たとえば、マスターボリュームのつまみは、文章中で【MASTER（マスター） VOLUME（ボリューム）】と表記します。

⇨の意味

○○○⇨※※※　○○○の操作を行なった結果、※※※の状態になることを示しています。（操作の結果を示します。）

※ この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

目　次

準　備

本　編

付　録

準
備
本
編
付
録

目的別目次

付属品（お確かめください）

・保証書
・取扱説明書（本書）
・クイックオペレーションガイド
・ピアノで弾く名曲 50 選（楽譜集）
・ヘッドフォン
・ヘッドフォンハンガーセット
・専用イス
・鍵盤布カバー
・ネジセット

■ 調律について

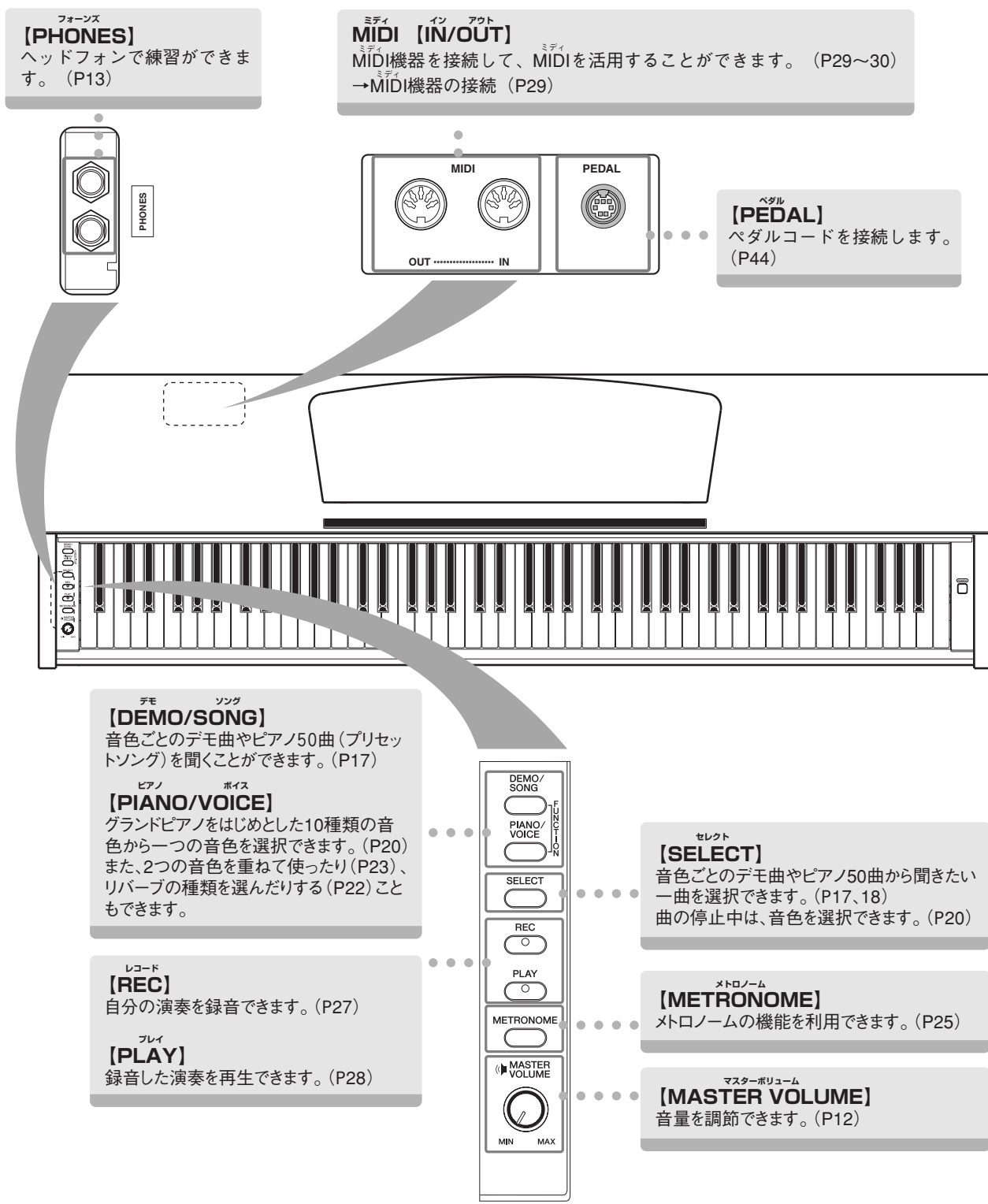
この楽器は調律の必要がありません。

■ お引っ越しのときは

通常の荷物と一緒にお運びいただけます。組み立てた状態でも、組み立てる前の部品に分解した状態でも問題ありませんが、本体は立てかけたりせず、必ず水平に置いてお運びください。また、大きな振動、衝撃を与えないでください。

この楽器でこんなことができます

ヤマハデジタルピアノ J-8000 は、ヤマハ独自のサンプリング音源システム「AWM ステレオサンプリング」による豊かな音色と、鍵域により鍵盤の重さを変えてグランドピアノのタッチ感に近付けた「グレードハンマー鍵盤」による自然な弾き心地を備えた電子ピアノです。

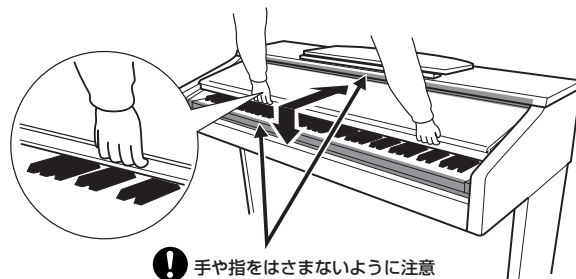
ピアノ音色のうち、グランドピアノ 1/2 の音色は、フルコンサートグランドピアノから新たにサンプリングしました。エレクトリックピアノ 1 の音色は、鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリングしています(ダイナミックサンプリング)。

ご使用前の準備

キーカバーについて

開けるとき

少し持ち上げて、奥へ押し込みます。

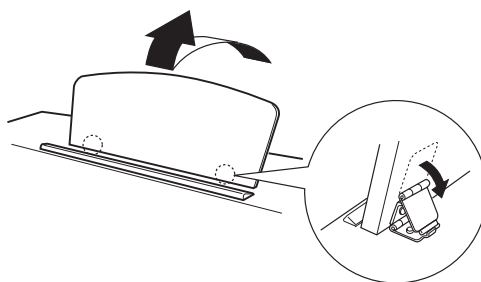
閉めるとき

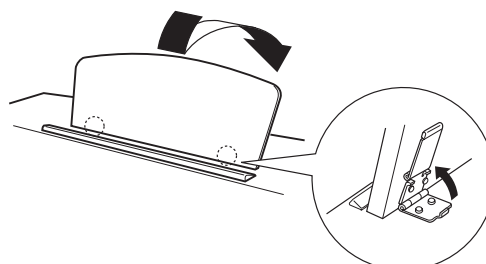
手前に引いて、静かに降ろします。

キーカバーを開閉するときは、両手で静かに行ない、途中で手を離さないでください。
また、ご自分や周りの方、特にお子様などが、キーカバーの端と本体の間に手や指をはさまないようご注意ください。

キーカバーを開けるとき、キーカバーの上に金属や紙片などを置かないでください。本体の内部に落ちて取り出せなくなり、感電、ショート、発火や故障などの原因になります。楽器内部に物が入ってしまった場合は、お買い上げ店、または巻末のヤマハ電気音響製品サービスにご相談ください。

譜面立てについて

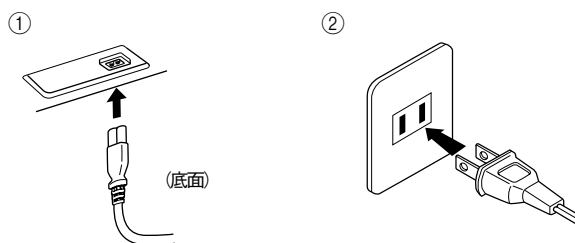
立てるとき

1. 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右の２つの金具を、下向きに開きます。
3. 金具が固定される位置まで、譜面立てを戻します。

倒すとき

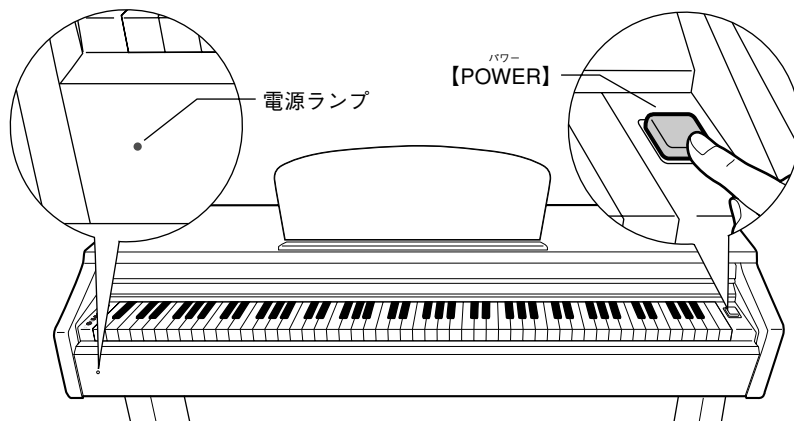
1. 譜面立てを、止まるまで手前に起こします。
2. 譜面立て裏にある左右２つの金具を、上向きに閉じます。
3. 譜面立てに手を添えて、ゆっくり戻します。

譜面立ては、金具が固定されない位置で使用または放置しないでください。
また、譜面立てを倒す時は、途中で手を離さないでください。

電源を入れる

1. 電源コードを接続する

最初に本体側のプラグを差し込み、次にコンセント側（家庭用AC100V）のプラグを差し込みます。

2. 電源を入れる

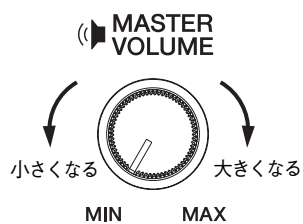
本体パネルの右の【POWER(パワー)】を押すと、電源が入ります。

⇨ この楽器前面左の電源ランプが点灯します。

電源を切るときは、もう一度【POWER(パワー)】を押します。

⇨ この楽器前面左の電源ランプが消灯します。

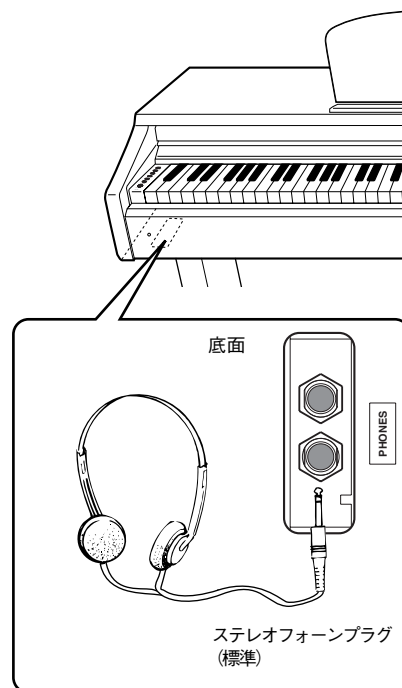
電源ランプについて…
電源を切り忘れてキーカバーを閉めてしまった場合でも、電源ランプで電源が入っているかを確認できます。

音量(ボリューム)調節

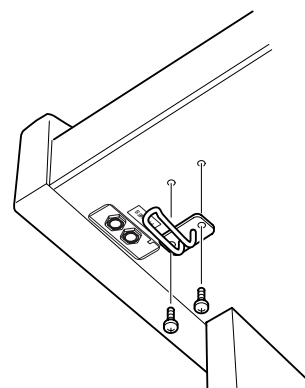
本体パネル左の【MASTER(マスター) VOLUME(ボリューム)】で調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。

⃠ 大きな音量で長時間使用しないでください。
聴覚障害の原因になります。

ヘッドフォンを使う場合

ヘッドフォンを【PHONES】端子に接続して使います。
【PHONES】端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。
聴覚障害の原因になります。

ヘッドフォンハンガー

この楽器には、取り付け式のヘッドフォンハンガーが同梱されています。ヘッドフォンハンガーを取り付けると、この楽器にヘッドフォンを掛けることができます。
付属のネジ(4×10mm)2本で、図のように取り付けてください。

ヘッドフォンハンガーにヘッドフォン以外のものを掛けないでください。本体またはヘッドフォンハンガーが破損する場合があります。

本　編

●この楽器の使い方を詳しく説明しています。

各部の名前

❶【POWER】（パワー）......P12
❷【DEMO/SONG】（デモ/ソング）......P17
❸【PIANO/VOICE】（ピアノ/ボイス）......P20 ～ 23
❹【SELECT】（セレクト）......P17、18、20
❺【REC】（レコード）......P27
❻【PLAY】（プレイ）......P27、28
❼【METRONOME】（メトロノーム）......P25
❽【MASTER VOLUME】（マスター ボリューム）......P12
❾【PHONES】（フォーンズ）......P13
❿ MIDI（ミディ）【IN】（イン）【OUT】（アウト）......P29
⓫【PEDAL】（ペダル）......P45
⓬ 左のペダル（ソフトペダル）......P21
⓭ まん中のペダル（ソステヌートペダル）......P21
⓮ 右のペダル（ダンパーペダル）......P21

デモ曲を聞く

この楽器には、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。

音色の特徴をつかむには・・・
「音色を選ぶ」(P20) をご覧ください。

本編

操作

1. 電源を入れる

(まだ電源を入れていない場合)【POWER】を押します。

⇨ 電源が入ります。

音量はデモ曲を再生しながらでも調節できますが、【MASTER VOLUME】を中程まで上げておいてください。

2. デモ曲をスタートする

【DEMO/SONG】を押します。

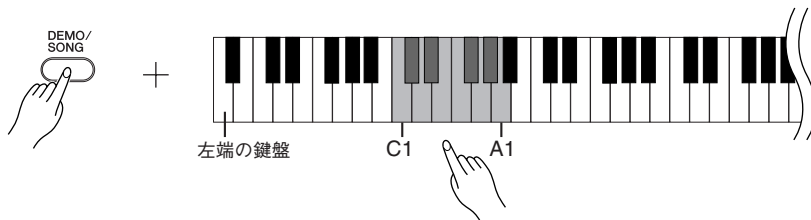
⇨ 今選ばれている音色の音色紹介デモ曲がスタートします。

デモ曲のとき、テンポは変更できません。

3. 選曲と再生スタート

デモ曲の再生中に【SELECT】を押すと、次のデモ曲に移ります。
10曲ある音色紹介デモ曲から1曲を直接選曲するには【DEMO/SONG】を押したままC1～A1鍵盤のどれかを押します。

⇨ デモ曲の再生がスタートします。デモ曲は、ストップするまで「別の音色のデモ曲」→「ピアノ50曲（プリセットソング)」→「コンピューターから読み込んだソング（データがある場合)」→「最初の音色のデモ曲」の順で連続して再生されます。

デモ曲はMIDI送信されません。

デモ曲

すべての音色 (10音色) に、その音色にふさわしいデモ曲が割り当てられています。「音色を選ぶ」(P20) を参照ください。
下記デモ曲は、原曲から編集 / 抜粋されています。
下記以外の曲は、オリジナル曲です。(©2005 Yamaha Corporation)

鍵盤	音色名	曲名	作曲者
C1	グランドピアノ1	森の情景ピアノのための9つの小品より「森の入り口」	シューマン
E1	ハープシコード1	ガボット	バッハ
F1	ハープシコード2	インベンション第1番	バッハ

音量の調節

デモ曲を聞きながら【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

4. 再生ストップ

【DEMO/SONG】を押します。

ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く

この楽器には、音色のデモ曲の他にピアノ 50 曲の演奏データが入っています。付属の『ピアノで弾く名曲 50 選』の楽譜集には、ピアノ 50 曲の楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。

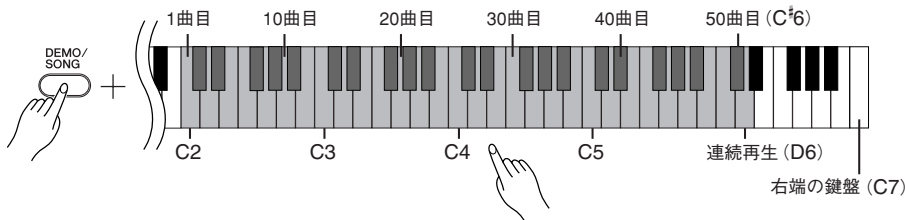
本編

操作

1. ピアノ曲選択と再生スタート

C2 ～ C#6 鍵盤（以下参照）には 50 曲の曲番号が割り当てられています。
【DEMO/SONG】を押したまま C2 ～ C#6 鍵盤のどれかを押して、再生する曲を選びます。

⇨ ピアノ曲の再生がスタートします。

ピアノ 50 曲を連続再生する場合は、**【DEMO/SONG】**を押したまま D6 鍵盤を押します。

ピアノ曲の再生中に**【SELECT】**を押すと、次のピアノ曲に移ります。

音量の調節

ピアノ曲を聞きながら**【MASTER VOLUME】**で音量を調節します。

2. 再生ストップ

再生をストップする場合は、**【DEMO/SONG】**を押します。

・続いて他の曲を再生する場合は、操作 **1** に戻ります。

SONG ソングとは・・・

この楽器では、演奏データを総称して「ソング（SONG）」と呼んでいます。デモ曲やピアノ曲も演奏データです。

再生に合わせて、自分で鍵盤を弾くこともできます。音色も変えられます。

テンポのリセット（再設定）

新しい曲を選ぶと（または、連続再生で新しい曲がスタートすると）テンポは自動的にその曲の固有のテンポにリセットされます。

ピアノ曲のテンポの調節については、P25 をご参照ください。

リバーブは新しい曲を選ぶと（または、連続再生で新しい曲がスタートすると）その曲に合ったリバーブの種類になります。

ピアノ 50 曲は、MIDI 送信されません。

コンピューターから読み込んだソングを聞く

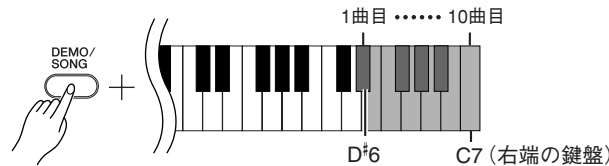
本編

コンピューターからソングデータを読み込んだあと、そのソングを鳴らすことができます。(コンピューターからソングを読み込む方法は 33 ページをご参照ください)

操作

1. 選曲と再生スタート

D#6 ～ C7 鍵盤(以下参照)には 1 から 10 の曲番号が割り当てられています。【DEMO/SONG】を押したまま D#6 ～ C7 鍵盤のどれかを押して、再生する曲を選びます。

⇨ 選んだ曲がスタートします。

音量の調節

演奏を聞きながら【MASTER VOLUME】で音量を調節します。

2. 再生ストップ

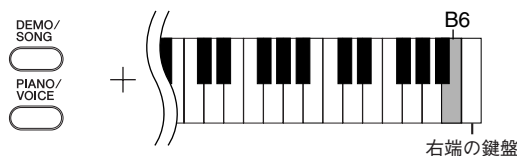
データの最後まで演奏すると、再生前の状態に戻ります。演奏の途中で止めたい場合は、【DEMO/SONG】を押します。

ソング再生チャンネルの選択

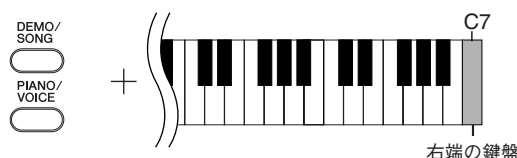
コンピューターから読み込んだソングデータで、この楽器にない音色を使用している場合、元の曲の音色が正確に再現されない場合があります。その場合は、以下のようにソング再生チャンネルをオールから 1+2 に切り替えると、より自然に聞こえることがあります。

ソング再生オールチャンネルの選択

【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】を同時に押したまま B6 鍵盤を押します。

⇨ 1 ～ 16 すべてのチャンネルが鳴ります。

ソング再生 1+2 チャンネルの選択

【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】を同時に押したまま C7 鍵盤を押します。

⇨ 1+2 チャンネルだけが鳴ります。

コンピューターから読み込めるソング数は 10 ソングです。また全体の容量は 352KB(キロバイト)です。

下の表にコンピューターから読み込んだソングをメモしておくと便利です。

鍵盤	ソング名
D#6	
E6	
F6	
F#6	
G6	
G#6	
A6	
A#6	
B6	
C7	

音色を楽しむ

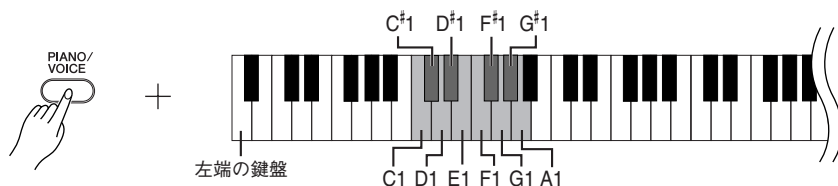
音色を選ぶ

本
編

操作

【PIANO/VOICE】を押して離すとグランドピアノ 1 が選ばれます。

【PIANO/VOICE】を押したまま C1 ～ A1 鍵盤のどれかを押して、音色を選びます。【PIANO/VOICE】を押してから【SELECT】を押しても音色を選ぶことができます。【SELECT】を押すたびに音色が切り替わります。

【MASTER VOLUME】で音量を調節しながら演奏してください。

鍵盤	音色名	音色紹介
C1	グランドピアノ 1	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
C#1	グランドピアノ 2	明るい響きを持った広がりのあるクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
D1	エレクトリックピアノ 1	FM シンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
D#1	エレクトリックピアノ 2	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
E1	ハープシコード 1	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによる音量変化はありません。
F1	ハープシコード 2	オクターブ上の音がミックスされたハープシコードの音です。より華やかさが感じられます。
F#1	ビブラフォン	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。
G1	チャーチオルガン 1	パイプオルガンのプリンシパル系 (金管楽器系) の混合音栓の音（8 フィート＋ 4 フィート＋ 2 フィート）です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
G#1	チャーチオルガン 2	バッハの「トッカータとフーガ」で有名なパイプオルガンのフルカプラーの音です。
A1	ストリングス	広がりある弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルに向いています。

音色の特徴をつかむには…
音色ごとのデモ曲を聞いてみてください。（P17）

【VOICE】の意味…
「VOICE」には、「声」や「音」などの意味があります。

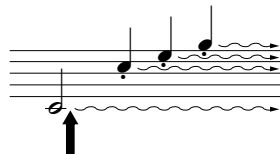
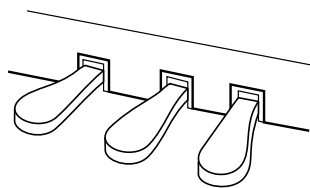
音色を選ぶと、その音色に合ったリバーブ（P22）が自動的に選ばれます。

ペダルを使う

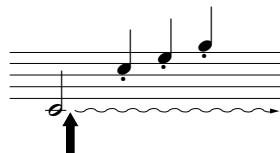
ペダルには、右のペダル（ダンパーペダル）とまん中のペダル（ソステヌートペダル）、左のペダル（ソフトペダル）があります。これらはピアノ演奏で使われます。

ダンパーペダルが効かない…
ペダルコードのプラグが【PEDAL】端子に差し込まれていないと思われます。確実に差し込んでください。（P44 の手順 6）

右のペダル（ダンパーペダル）

このペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても弾いた音を長く響かせることができます。

ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

まん中のペダル（ソステヌートペダル）

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。

ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

オルガンやストリングスの音色では…
ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず、踏んでいる間鳴り続けます。

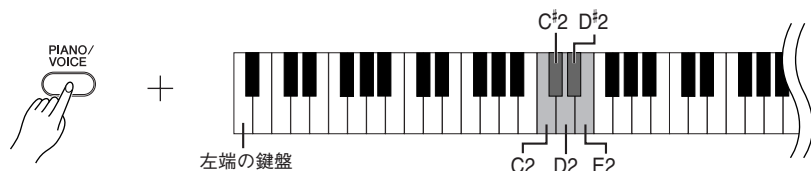
左のペダル（ソフトペダル）

このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。（ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。）

音に残響を付ける(リバーブ)

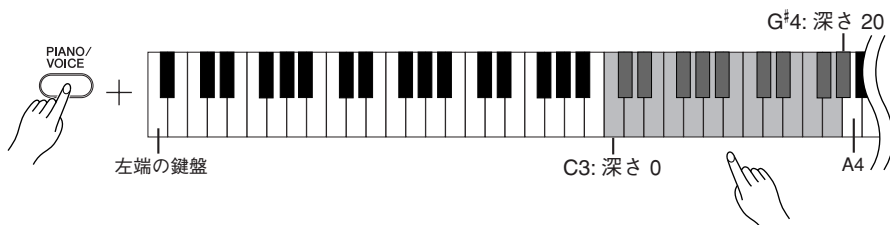
コンサートホールやライブハウスで演奏しているような残響効果をかけることができます。また、その深さ(かかり具合)を変えることもできます。

操作

【PIANO/VOICE】を押したまま C2 ～ E2 鍵盤のどれかを押して、リバーブの種類を選びます。

鍵盤	リバーブの種類	説明
C2	ルーム	部屋の中にいるような響きになります。
C#2	ホール 1	小さいコンサートホールにいるような響きになります。
D2	ホール 2	大きいコンサートホールにいるような響きになります。
D#2	ステージ	ステージにいるような響きになります。
E2	オフ	リバーブはかかりません。

深さ(かかり具合)の設定

【PIANO/VOICE】を押したまま C3 ～ G#4 鍵盤のどれかを押して、リバーブの深さを設定します。設定範囲は 0 ～ 20 です。

基本設定...
音色ごとにリバーブの種類(オフも含む)や深さが設定されています。

深さ 0 :効果なし
深さ 20 :深さ最大

右の鍵盤ほどリバーブの深さを深く設定できます。

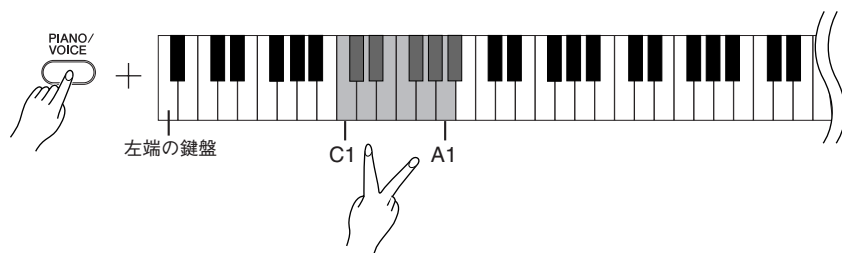
【PIANO/VOICE】を押したまま A4 鍵盤を押すと、その音色に最適なリバーブの深さになります。

2 つの音色を重ねる（デュアル）

2 種類の音色を重ねて鳴らすことができます。重ねて鳴らすことにより厚みのある音を作り出したりすることができます。

操作

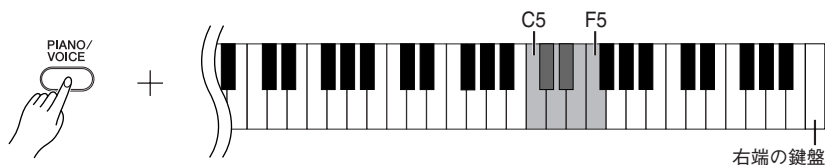
1. デュアルモードに入る

【PIANO/VOICE】を押したまま、C1 ～ A1 鍵盤のうち 2 つの鍵盤を同時に（または、ひとつの鍵盤を押したままもう一方の鍵盤を）押して、重ねて鳴らす 2 つの音色を選びます。
音色の割り当てについては、「音色を選ぶ」（P20）をご参照ください。

上記の設定で選んだ 2 つの音色のうち、左側の鍵盤に割り当てられた音色を第 1 音色、同様に右側の鍵盤に割り当てられた音色が第 2 音色になります。

第 1 音色、第 2 音色はそれぞれ、以下のようにさまざまな設定ができます。

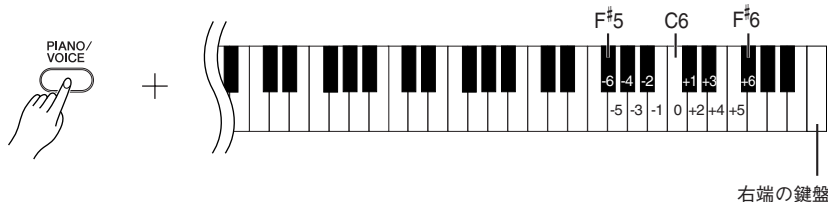
オクターブシフトの設定

音程を 1 オクターブ上下にシフトさせます。第 1 音色と第 2 音色別々に設定できます。音の響き方が違ってきます。

【PIANO/VOICE】を押したまま C5 ～ F5 鍵盤のどれかを押します。

C5：-1（第 1 音色）、　C#5：0（第 1 音色）、 D5：+1（第 1 音色）
D#5：-1（第 2 音色）、 E5：0（第 2 音色）、　F5：+1（第 2 音色）

音色の音量バランスの設定

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く重ねるなど、2 音色の音量バランスを設定します。

【PIANO/VOICE】を押したまま F#5 ～ F#6 鍵盤のどれかを押します。
設定値が +6 に近付くほど第 1 音色の音量が大きくなります。設定値が 0 で同音量です。

デュアル＝ 2 つ

デュアルで同じ音色を設定することはできません。

デュアルのときのリバーブ…
第 1 音色のリバーブの種類が、優先されます。（第 1 音色のリバーブがオフの時は、第 2 音色に設定されているリバーブの種類になります。）深さの調節（P22）は、第 1 音色にだけ影響します。

本編

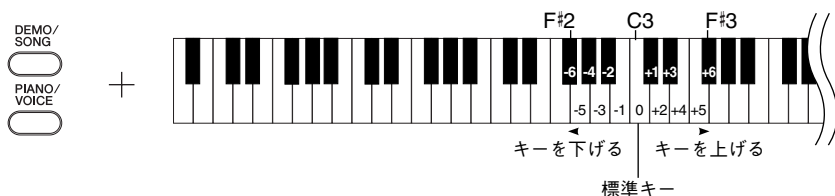
2. デュアルモードを抜ける

【PIANO/VOICE】を押したまま C1 ～ A1 鍵盤のどれかを押します。

キー（調）を変える（トランスポーズ）

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さにキー（調）を合わせることができます。半音単位でトランスポーズを設定できます。
たとえばトランスポーズを「5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏になります。

操作

【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】を同時に押したまま F#2 ～ F#3 鍵盤のどれかを押してトランスポーズを設定します。

C3 鍵盤を押すと標準の音の高さになります。F#2 ～ B2 鍵盤を押すと半音単位でキーが下がり、C#3 ～ F#3 鍵盤を押すと半音単位でキーが上がります。

トランスポーズ：移調する
移調：曲全体の音の高さを上げたり下げたりしてキー（調）を変えること。

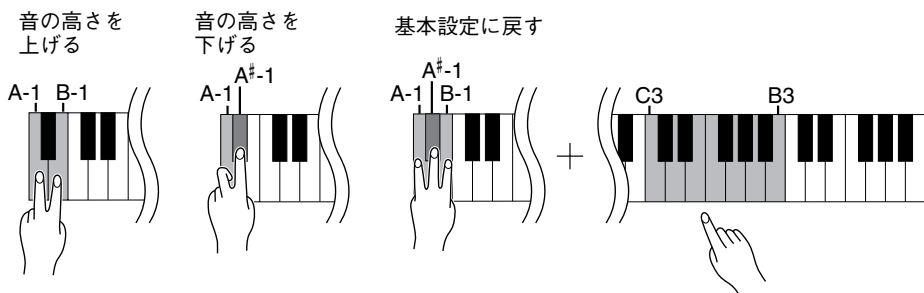
音の高さの微調整

楽器全体の音の高さを微調整する機能です。合奏のときや、CD の再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器や CD の再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

操作

音の高さを上げる（0.2Hz 単位）
A-1 と B-1 鍵盤を同時に押したまま C3 ～ B3 鍵盤のどれかを押します。

音の高さを下げる（0.2Hz 単位）
A-1 と A#-1 鍵盤を同時に押したまま C3 ～ B3 鍵盤のどれかを押します。

基本設定に戻す
A-1 と A#-1 と B-1 鍵盤を同時に押したまま C3 ～ B3 鍵盤のどれかを押します。

設定範囲：427.0 ～ 453.0 Hz
基本設定：440.0 Hz

Hz とは…
音の高さを示す単位です。（音の高さは音波の振動数によって決まります。1 秒間に何回振動するかという数値の単位が Hz です。）

メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム（ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具）を備えています。ご使用ください。

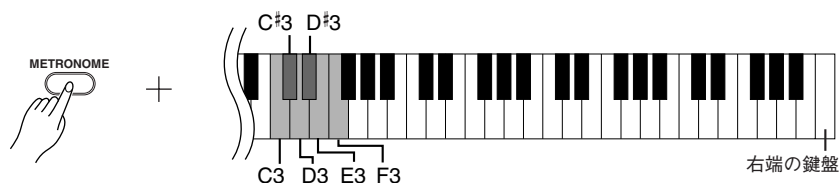
操作

1. メトロノームを鳴らす

【METRONOME】を押します。

⇨ メトロノームが鳴り出します。

拍子の設定

【METRONOME】を押したまま C3 〜 F3 鍵盤のどれかを押します。

C3: 拍子なし、C#3: 2/4、D3: 3/4、D#3: 4/4、E3: 5/4、F3: 6/4

テンポの調節

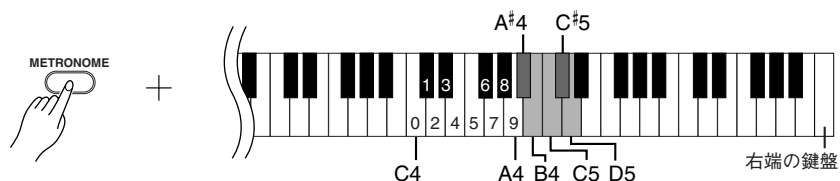
メトロノーム、ピアノ 50 曲（プリセットソング）や自分で演奏したソングは、32 〜 280（1 分間の拍数）の範囲で設定することができます。

以下の鍵盤にはそれぞれ数字が割り当てられています。
【METRONOME】を押したまま C4 〜 A4 鍵盤のどれかを押して、3 桁の数字を設定します。100 の位から順番に設定します。
たとえば、テンポを 95 に設定したい場合は、【METRONOME】を押したまま、C4（0）、A4(9)、F4(5) の順番で鍵盤を押します。

テンポを 1 ずつ上げる
【METRONOME】を押したまま C#5 鍵盤を押します。

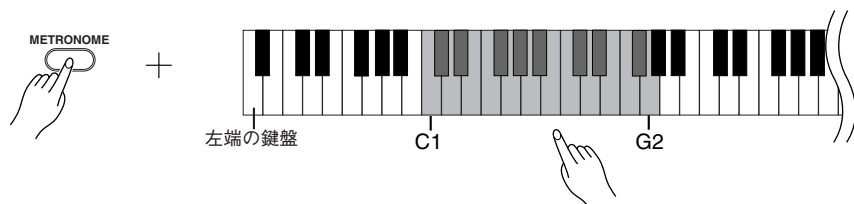
テンポを 1 ずつ下げる
【METRONOME】を押したまま B4 鍵盤を押します。

テンポを 10 ずつ上げる
【METRONOME】を押したまま D5 鍵盤を押します。

テンポを 10 ずつ下げる
【METRONOME】を押したまま A#4 鍵盤を押します。

テンポを基本設定に戻す
【METRONOME】を押したまま C5 鍵盤を押します。

本編

音量の調節

メトロノームの音量を設定します。
【METRONOME】を押したまま C1 ~ G2 鍵盤のどれかを押して音量を設定します。

2. メトロノームを止める

【METRONOME】を押します。
⇨ メトロノームが止まります。

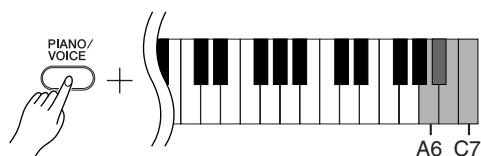
タッチ感度を設定する

鍵盤を弾く強さに対する鳴る音の音量を設定します。
以下の 4 段階に設定できます。

オルガンなど一部の音色ではタッチがかかりません。

A6....................弱く弾いても強く弾いても鳴る音の強弱は変わりません
A#6..................弱く弾いても強く弾いても鳴る音の強弱の差が少ない設定です
B6....................標準的なピアノタッチです（工場出荷時はこの設定になっています）
C7....................ピアニッシモからフォルテッシモまでダイナミックの広い演奏ができます。したがって、この設定では強く弾かないと大きな音がでません。

操作

【PIANO/VOICE】を押しながら A6 ~ C7 の鍵盤を押してタッチ感度を設定します。

演奏を録音（記録）する

この楽器では、録音機能を使って自分の演奏を 1 曲録音できます。
この楽器で録音した曲を「ユーザーソング」と呼びます。
自分の演奏を録音 / 再生してみましょう。

> **「録音」と「記録」**
> カセットテープに録音するのと楽器内の録音機能を使って録音 (記録) するのとでは、録音されるデータの形式が異なります。
> カセットテープでは音そのものが「録音」されますが、楽器内の録音機能では音そのものではなく、「どの音をどのタイミングで弾いたか、また音色はなにか、テンポはいくつで…」という情報が「記録」されます。再生時は記録された情報どおりに、「音源」部が鳴ります。
> この楽器の録音機能を使った「録音」は、本来「記録」というべきですが、広義に捉えて、本書では一般的に理解しやすい「録音」という言葉を使います。ただし、特に区別してご理解いただきたい場合は、「記録」という場合もあります。

録音済みのパートを消さないために
すでにこの楽器に演奏が録音されているときは、【PLAY】のランプが点灯します。このまま録音すると、それまでの録音データは消えてしまいますのでご注意ください。

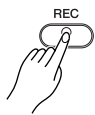
本編

操作

1. 録音する音色 (とそのほかの設定) を選ぶ

【PIANO/VOICE】を押したまま C1 ～ A1 鍵盤のどれかを押して演奏したい音色を選びます。（P 20）
必要に応じてそのほかの設定（リバーブなど）も選んでください。
【MASTER VOLUME】は弾きやすい音量に設定してください。再生のときにも**【MASTER VOLUME】**で音量を調節することができます。

デモ曲が鳴っているときは録音モードに入ることができません。

2. 録音モードに入る

【REC】を押します。

録音を中止する場合は、もう一度**【REC】**を押します。

演奏記憶容量は？
この楽器に演奏を録音できる容量のことです。65KB（およそ 11,000 音符）となります。

録音済みのユーザーソングの設定を変えたい場合は・・・
録音モードに入り、演奏を始めずに設定を変えるだけで録音を終了すれば、設定が変わります。
たとえばユーザーソングの音色を変えたい場合は、【REC】を押して録音モードに入り（手順 2)、音色を設定します（手順 1)。設定が終わったら **鍵盤を弾かずに**【REC】を押して録音を終了します（手順 4)。

3. 録音の開始

鍵盤を弾くと録音が始まります。
または**【PLAY】**を押しても録音が始まります。

楽器が内部のメモリーにデータを書き込んでいるとき（【REC】と【PLAY】のランプが点滅中）は電源を切らないでください。
録音中のデータだけでなく、すべての記憶内容が失われる原因になります。

4. 録音の終了

【REC】を押します。

録音したユーザーソングはコンピューターに保存することができます。
またコンピューターから読み込んで再生することもできます。（P33 ）

録音した演奏を再生する

操作

1. 演奏の開始

【PLAY】を押します。

ユーザーソングの再生では、テンポの調節はできません。
録音したときのテンポで再生されます。

2. 再生ストップ

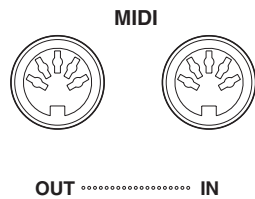
ユーザーソングの再生が終了すると、自動的に再生前の状態に戻ります。
再生途中にストップする場合は、【PLAY】を押します。

本編

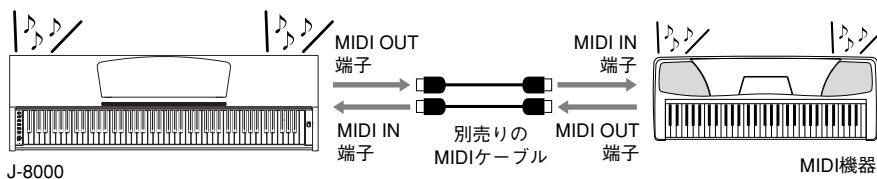
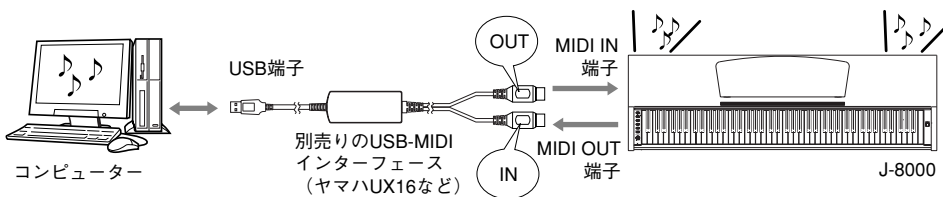
MIDI 機器の接続

この楽器にはMIDI 端子がついています。MIDI 機能を使って音楽の幅を広げることができます。

MIDI って何？

MIDI（ミディ）は、電子楽器間で演奏情報のやりとりができる世界共通の規格です。
MIDI 端子のある電子楽器同士を MIDI ケーブルでつなげることで、違う楽器間でいろいろな演奏の情報や設定の情報などを送信 / 受信できます。
1 つの楽器で演奏するよりも高度な演奏も可能になります。

MIDI でできること

MIDI 機能を使えば、他の MIDI 機器との演奏情報のやりとりや、コンピューターからのソングデータの読み込み、コンピューターへのユーザーソングデータの送信などができます。

● 他の MIDI 機器と接続して演奏情報を送受信する

● コンピューターと接続して MIDI データを送受信する

MIDI 機器の中でも、機種ごとに送受信できる MIDI データの内容が同じではないため、接続している MIDI 機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることになります。
共通に扱えるデータや命令は、各機種の「MIDI インプリメンテーションチャート」を照合して調べることができます。この楽器の MIDI インプリメンテーションチャートは P41 に掲載されています。

MIDI 機器の接続には、専用の MIDI ケーブル（別売り）が必要です。楽器店などでお買い求めください。

長いケーブルを使用すると、送受信のエラーが起こる場合があります。ケーブルは 15m 以内のものをご使用ください。

外部機器を接続する場合は、この楽器の電源を切った状態で接続してください。その後、「外部機器→この楽器 」の順に電源を入れてください。

この楽器 から音色デモやピアノ 50 曲のソングデータは送信できません。

ソングデータの送受信についての詳細は、「コンピューターと楽器間でソングデータを送受信する」（P33）をご覧ください。

本編

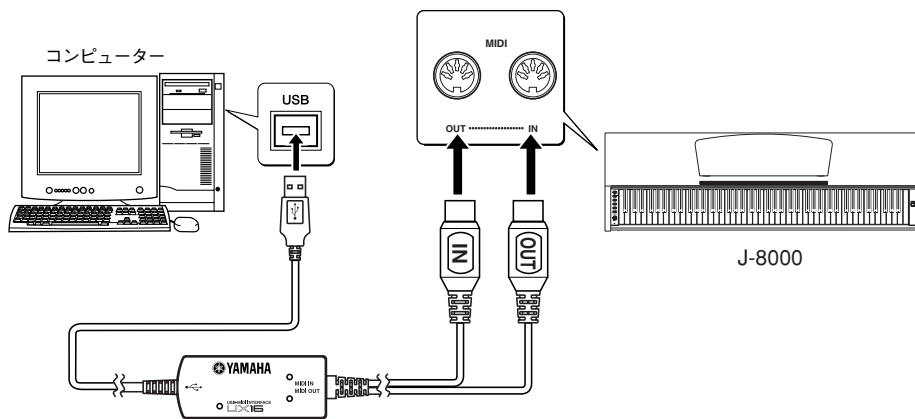
コンピューターと接続する

コンピューターをこの楽器のMIDI端子につなげば、コンピューターとの間でMIDIデータを送受信できるようになります。

この楽器を音源として使う場合、この楽器にない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。

コンピューターと接続する場合は、最初に、この楽器とコンピューターの電源を切った状態でケーブル接続を行ない、その後コンピューター → 楽器の順番で、電源を入れてください。

コンピューターのUSB端子と楽器を接続する例

コンピューターのUSB端子と、楽器のMIDI端子を別売のUSB-MIDI インターフェース（YAMAHA UX16 など）を使用して接続します。
MIDI機器をコンピューターで使用するには、コンピューターにUSB-MIDIドライバーを正しくインストールする必要があります。USB-MIDIドライバーは、シーケンスソフトなどからUSBケーブルを通じて楽器にMIDI信号を送信したり、逆に楽器からシーケンスソフトなどにMIDI信号を送信するためのソフトウェアです。
詳しくは、USBインターフェース機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

USB-MIDI インターフェースを使用してこの楽器とコンピューターを接続してみましょう

楽器の電源を切ってから、USB-MIDIインターフェースのMIDI OUTケーブルを楽器のMIDI IN端子に、USB-MIDIインターフェースのMIDI INケーブルを楽器のMIDI OUT端子に接続します。

これでこの楽器とコンピューターが接続できました。
楽器の電源をオンにして、コンピューターとの間でソングデータなどを送受信してみましょう。
YAMAHA UX16を使った接続について詳しくは、UX16に付属の取扱説明書をご参照ください。

コンピューターと楽器間でMIDIデータを送受信するためには、コンピューター側にアプリケーションソフトが必要です。

MIDI に関する設定をする

MIDI に関する各種設定や操作を行ないます。

MIDI送信/受信チャンネルの設定

MIDI 楽器どうしで、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側で MIDI チャンネル（1 ～ 16 チャンネル）を合わせておく必要があります。ここでこの楽器から MIDI データを送受信するときのチャンネルを設定します。

操作

MIDI 送信チャンネルの設定

【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】を同時に押したまま C1 ～ E2 鍵盤のどれかを押します。

MIDI 受信チャンネルの設定

【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】を同時に押したまま C4 ～ F5 鍵盤のどれかを押します。

デュアルのときの第 2 音色は…

ここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます。(第 1 音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます。）ただし、上記設定チャンネルをOFF に設定した場合は送信されません。

ALL の場合は…

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部MIDI 機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時に受信します。複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、この楽器で受信して再生させることができます。

「1 ＋ 2」の場合は…

シーケンサーなどの外部MIDI機器から受信するデータのうち1、2 チャンネルのデータだけを受信し、この楽器本体で再生することができます。

本体のパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ（音色切り替え）などのチャンネルメッセージから影響を受けません。

デモ曲/ ピアノ 50 曲（プリセットソング）の再生データは MIDI 送信されません。

ローカルコントロールオン / オフの設定

通常、この楽器の鍵盤を弾くと本体内部の「音源」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールオン」と呼ばれます。「ローカルコントロールをオフ」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもこの楽器からは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏データは MIDI 送信されますので、この楽器の音を鳴らさずに MIDI 接続した外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールをオフにします。

ローカルをオフにすると楽器本体から音が出なくなります。

操作

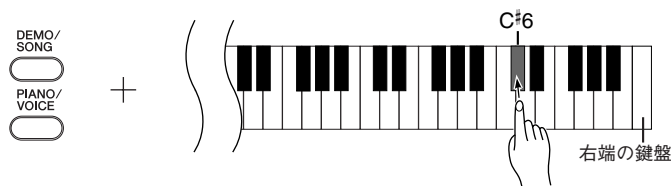
【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】を同時に押したまま C6 鍵盤を押します。C6 鍵盤を押すたびにローカルコントロールオン／オフが設定されます。

プログラムチェンジ送受信オン／オフの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジと言います。たとえばこの楽器 からプログラムチェンジを送信すると MIDI 接続した外部機器の音色を切り替えることができます。(この楽器 のパネル上で音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。) 逆に MIDI 接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジをこの楽器が受信すると、同時に受信している MIDI の演奏データの音色が切り替わります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません。)
このプログラムチェンジの送 / 受信ができたほうが便利な場合 (=MIDI 接続した外部機器と音色切り替えを連動させたい場合) と、できないほうが便利な場合 (=MIDI 接続した外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合) があります。音色切り替えを連動させたい場合はオンに、連動させたくない場合は、オフにします。

各音色のプログラムチェンジナンバーについては「MIDI データフォーマット」(P38) をご覧ください。

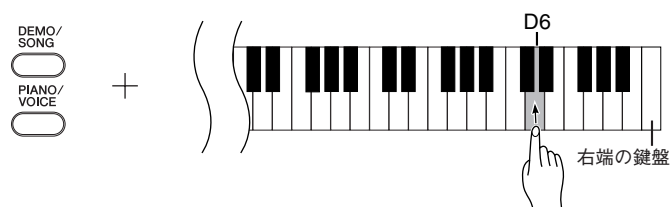
操作

【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】を同時に押したまま C#6 鍵盤を押します。
C#6 鍵盤を押すたびにプログラムチェンジ送受信オン／オフが設定されます。

コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定

コントロールチェンジデータとは、MIDI データのうち、演奏表現など (たとえば、ダンパーペダルの情報) に関するデータのことです。
この楽器 からコントロールチェンジを送信すると MIDI 接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(この楽器 でダンパーペダルを操作をしたときなどにコントロールチェンジが送信されます。) 逆に MIDI 接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジをこの楽器 が受信すると、同時に受信している MIDI の演奏データがそれに反応します。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません)。
このコントロールチェンジの送 / 受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送 / 受信ができたほうが便利な場合はオンに、できないほうが便利な場合は、オフにします。

この楽器 がコントロールチェンジとして扱える情報については「MIDI データフォーマット」(P38) をご覧ください。

操作

【DEMO/SONG】と【PIANO/VOICE】を同時に押したまま D6 鍵盤を押します。
D6 鍵盤を押すたびにコントロールチェンジ送受信オン／オフが設定されます。

コンピューターと楽器間でソングデータを送受信する

この楽器にはデモソングやピアノ 50 曲を内蔵していますが、そのほかにコンピューターからソングデータを読み込んで演奏することもできます。
この操作をするためには、下記 URL から ミュージックソフトダウンローダーをダウンロードし、ご使用のコンピューターにインストールする必要があります。
http://www.yamaha.co.jp/download/msd/

ミュージックソフトダウンローダーのソフトウェアは、無料でダウンロードできます。

● ミュージックソフトダウンローダー を使用するために必要なコンピューターシステム

・OS	:Windows 98SE/Me/2000/XP Home Edition/XP Professional
・CPU	:233MHz 以上 (500MHz 以上推奨) の Intel® Pentium® および Celeron® ファミリー
・メモリー	:64MB 以上 (256MB 以上推奨)
・ハードディスク	:128MB 以上の空き領域 (512MB 以上推奨)
・ディスプレイ	:800 × 600 HighColor(16-bit)
・その他	:Microsoft® Internet Explorer®5.5 以上がインストールされていること

コンピューターからソングデータを楽器に読み込む

主に、ピアノだけのソングを読み込んだり、この楽器で録音してコンピューターに保存した曲をもう一度楽器に読み込むのに使用します。
SMF Format0 の MIDI(ミディ) データはこの楽器に読み込めますが、そのデータがこの楽器にない機能を使用している場合は、データどおりに再生できません。
コンピューターからソングデータを楽器に読み込む方法は、ミュージックソフトダウンローダーについているヘルプ「コンピューターと電子楽器の間でデータを転送する」をご参照ください。

SMF(スタンダード MIDI(ミディ) ファイル)
代表的なシーケンスフォーマット (演奏データを記録する形式) の一つです。「MIDI(ミディ) ファイル」と呼ばれることもあります。ファイルの拡張子は MID です。
SMFフォーマットでセーブされた曲（ソング）データは、SMF 対応の音楽ソフトやシーケンサーで手軽に再生できます。
この楽器もSMF に対応しています。

● コンピューターから楽器に読み込める内容

・ソング	：最大 10 ソング＋ユーザーソング
・データ量	：合計で 352KB（キロバイト）
・データフォーマット	：SMFFormat0 と YDP-151.BUP（ユーザーソング）

データ送信中は電源を切ったり、電源プラグを抜き差ししないでください。送信中のデータが保存されないだけではなく、フラッシュメモリーの動作が不安定になり、メモリー内容が電源入/切時にすべて消える可能性があります。

楽器の操作をするためには、ミュージックソフトダウンローダーの画面を閉じて終了させる必要があります。

楽器からソングデータをコンピューターに送信する

ミュージックソフトダウンローダーを使って、楽器内のユーザーソングをコンピューターに送信できます。
ユーザーファイルをコンピューターに送信する方法は、ミュージックソフトダウンローダーについているヘルプ「コンピューターと電子楽器の間でデータを転送する」をご参照ください。

● 楽器からコンピューターへ送信できる内容

・ユーザーソング：YDP-151.BUP
・コンピューターから読み込んだソング

本
編

バックアップデータと初期化（イニシャライズ）の方法

フラッシュメモリーへのデータバックアップ

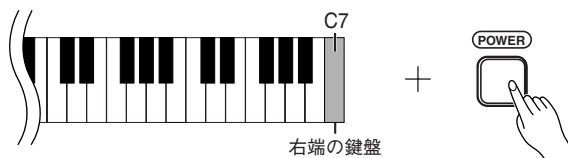
下記の項目は楽器のフラッシュメモリーに保存されます。
これらは電源を切っても記憶されています。

バックアップデータ
メトロノームの音量
メトロノームの拍子
タッチ感度
チューニング
自分で録音したソング（ユーザーソング）データ
コンピューターから読み込んだソングデータ

初期化（イニシャライズ）の方法

この操作をすると、ユーザーソングとコンピューターから読み込んだソング以外のデータが初期化（工場出荷時の状態になります）されます。

右端の鍵盤（C7）を押しながら電源を入れます。

⇨ 自分で録音したソング、コンピューターから読み込んだソング以外のデータが初期化されます。

初期化実行中（【REC】と【PLAY】のランプ点滅中）は電源を切らないでください。

この楽器が、何らかの原因で操作不能になったり、誤動作した場合は、一旦電源を切り、初期化を行なってください。

困ったときは

現象	考えられる原因	解決法
この楽器の電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)。	電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください。(P12)
【POWER】を押して電源を入れたとき、または切ったとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたためです。	異常ではありません。
この楽器から雑音が出る。	この楽器の近くで携帯電話を使っています(または呼び出し音が鳴っています)。	この楽器の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。この楽器の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	【MASTER VOLUME】が下がっています。	【MASTER VOLUME】を上げてください。(P12)
	ヘッドフォンを接続しています。(P13)	ヘッドフォンのプラグを抜いてください。
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください。(P31)
ダンパーペダルが効かない、またはダンパーペダルを踏んでいないのに音が長く響いてしまう。	ペダルコードのプラグが【PEDAL】端子に差し込まれていません。	ペダルコードのプラグを【PEDAL】端子に確実に差し込んでください。(P45)
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。	異常ではありません。

付　録

●「MIDI（ミディ）データフォーマット」などの資料を掲載しています。

MIDI（ミディ）データフォーマット

1. ノートオン / オフ

［9nH］→［kkH］→［vvH］
9nH ＝ ノートオン / オフ・イベント（n ＝チャンネル No.）
kkH ＝ ノート No.
（送信：09H ～ 78H ＝ A-2 ～ C8）
（受信：00H ～ 7FH ＝ C-2 ～ G8）
vvH ＝ ベロシティ
（ノートオン＝01H～7FH、ノートオフ＝00H）

［8nH］→［kkH］→［vvH］（受信のみ）
8nH ＝ ノートオフ （n ＝チャンネル No.）
kkH ＝ ノート No. （00H ～ 7FH＝ C-2 ～ G8）
vvH ＝ ベロシティ

2. コントロールチェンジ

［BnH］→［ccH］→［vvH］
BnH ＝ コントロール・チェンジ（n ＝チャンネル No.）
ccH ＝ コントロール No.
vvH ＝ コントロール値

1）バンク選択

ccH パラメーター 値（vvH）
00H バンク選択 MSB 00H：ノーマル
20H バンク選択 LSB 00H ～ 7FH

※ プログラムチェンジを受信するまで、バンク選択の処理は保留されます。

2) メインボリューム

ccH パラメーター 値（vvH）
07H ボリューム 00H ～ 7FH

3）エクスプレッション（受信のみ）

ccH パラメーター 値（vvH）
0BH エクスプレッション 00H ～ 7FH

4）ダンパーペダル

ccH パラメーター 値（vvH）
40H ダンパー 00H ～ 7FH

5）ソステヌートペダル

ccH パラメーター 値（vvH）
42H ソステヌート 00H ～ 3FH：オフ、40H ～ 7FH：オン

6）ソフトペダル

ccH パラメーター 値（vvH）
43H ソフトペダル 00H ～ 3FH：オフ、40H ～ 7FH：オン

7）エフェクト1 デプス（リバーブ・センドレベル）

ccH パラメーター 値（vvH）
5BH エフェクト 1 デプス 00H ～ 7FH

※ リバーブ・エフェクトに対するセンドレベルを設定します。

8）エフェクト4 デプス（バリエーション・エフェクト・センドレベル ）

ccH パラメーター 値（vvH）
5EH エフェクト 4 デプス 00H ～ 7FH

9）RPN

65H RPN MSB
64H RPN LSB
06H データエントリー MSB
26H データエントリー LSB
60H データ Increment
61H データ Decrement

※ RPN でコントロールできるもの
・コースチェーン
・ファインチェーン
・ピッチベンドレンジ

3. モード・メッセージ

［BnH］→［ccH］→［vvH］
BnH ＝ コントロール・イベント（n ＝チャンネル No.）
ccH ＝ モード・メッセージ No.
vvH ＝ モード・メッセージ値

1）オール・サウンド・オフ

ccH コントローラー 値（vvH）
78H オール・サウンド・オフ 00H

2）リセット・オール・コントローラー

ccH コントローラー 値（vvH）
79H リセット・オール・コントローラー 00H

※ 以下のようにリセットされます。
コントローラー 設定値
エクスプレッション 127（最大）
サステインペダル 0（オフ）
ソステヌート 0（オフ）
ソフトペダル 0（オフ）

3）ローカルコントロール（受信のみ）

ccH コントローラー 値（vvH）
7AH ローカルコントロール 00H（オフ）、7FH（オン）

4）オール・ノート・オフ

ccH コントローラー 値（vvH）
7BH オール・ノート・オフ 00H

※ 該当チャンネルのオンしているノートをすべてオフにします。ただし、ダンパーもしくはソステヌートがオンの場合は、それらがオフになるまで発音は終了しません。

5）オムニ・オフ（受信のみ）

ccH コントローラー 値（vvH）
7CH オムニ・オフ 00H

※ オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

6）オムニ・オン（受信のみ）

ccH コントローラー 値（vvH）
7DH オムニ・オン 00H

※ オール・ノート・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

7）モノ（受信のみ）

ccH コントローラー 値（vvH）
7EH モノ 00H

※ オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

8）ポリ（受信のみ）

ccH コントローラー 値（vvH）
7FH ポリ 00H

※ オール・サウンド・オフを受信したときと同じ動作を行ないます。

◆補足

1. コントロールチェンジオン / オフがオフされているときは、コントロールチェンジは送受信されません。
2. ローカル・オン / オフ、オムニ・オン / オフは送信しません。（オール・ノート・オフは、送信時もノート・オフ数を合わせます。）
3. ボイス・バンク（MSB、LSB）受信時は、順番に関係なく受け付けた番号を内部バッファーに保存し、プログラムチェンジを受信した時点のバッファー値を用いて実際の音色を決めます。
4. 本機は常にポリ・モードであり、モノ / ポリ・モードを受信しても、モードは変わりません。

4. プログラムチェンジ

［CnH］→［ppH］
CnH ＝ プログラムチェンジ（n ＝チャンネル No.）
ppH ＝ プログラムチェンジ No.

※ プログラムチェンジオン / オフがオフされているときは、プログラムチェンジは送受信されません。

各音色のプログラムチェンジナンバーについては、<付表 1>をご参照ください。

5. ピッチベンドチェンジ

［EnH］→［ccH］→［ddH］
ccH = LSB
ddH = MSB

6. システム・リアルタイム・メッセージ

1) アクティブ・センシング

［FEH］

※ 200msec ごとに送信します。
※ 一度 FEH を受信した後、約 400msec 以上 MIDI からの信号がこない場合は、オール・サウンド・オフ、オール・ノート・オフ、リセット・オール・コントローラーを受信したときと同じ処理をします。

2) クロック

［F8H］

※ 96 分タイミングで送信します。
※ エクスクルーシブ・メッセージでクロックがエクスターナルにセットされた場合に、96 分タイミングとして受信します。

3) スタート

［FAH］

※ ソングスタート時に送信します。
※ 受信するとソングがスタートします。
※ クロックが Internal に設定されているときは受信しません。

4) ストップ

［FCH］

※ ソングストップ時に送信します。
※ 受信するとソングがストップします。
※ クロックが Internal に設定されているときは受信しません。

※ MIDI 受信時にエラーが起こったときは、全チャンネルのダンパー、ソステヌート、ソフト効果をオフし、オール・ノート・オフします。

<付表 1>
各音色のプログラムチェンジナンバー

P.C.#=Program Change number

Voice Name	MSB	LSB	P.C.#
グランドピアノ 1	0	122	1
グランドピアノ 2	0	112	1
エレクトリックピアノ 1	0	122	6
エレクトリックピアノ 2	0	122	5
ハープシコード 1	0	122	7
ハープシコード 2	0	123	7
ビブラフォン	0	122	12
チャーチオルガン 1	0	123	20
チャーチオルガン 2	0	122	20
ストリングス	0	122	49

* プログラムチェンジを 0 ～ 127 で設定する場合は、上記リストの P.C. # から 1 を引いた数で指定します。たとえば、P.C.#1 のプログラムを指定する場合は、プログラムチェンジ =0 になります。

7. システム･エクスクルーシブ･メッセージ（ユニバーサル･システム･エクスクルーシブ）

1) ユニバーサル･リアルタイム･メッセージ

[F0H]→[7FH]→[XnH]→[04H]→[01H]→[ℓℓH]→[mmH]→[F7H]

MIDI マスターボリューム

※ 全チャンネルの音量が一度に変化します。
※ MIDIマスター･ボリュームを受信したときは､MIDI入力チャンネルのみに効果があり、パネルのボリュームは変化しません。

F0H　：エクスクルーシブ･ステータス
7FH　：ユニバーサル･リアルタイム
7FH　：ターゲットデバイスの ID
04H　：サブ ID #1（機種コントロール･メッセージ）
01H　：サブ ID #2（マスターボリューム）
ℓℓH　：ボリューム LSB
mmH　：ボリューム MSB
F7H　：エンド･オブ･エクスクルーシブ

または

F0H　：エクスクルーシブ･ステータス
7FH　：ユニバーサル･リアルタイム
XnH　：X は無視、n は 0 ～ F を受信
04H　：サブ ID #1（機種コントロール･メッセージ）
01H　：サブ ID #2（マスターボリューム）
ℓℓH　：ボリューム LSB
mmH　：ボリューム MSB
F7H　：エンド･オブ･エクスクルーシブ

2) ユニバーサル･ノン･リアルタイム･メッセージ(GM ON)

[F0H]→[7EH]→[XnH]→[09H]→[01H]→[F7H]

ジェネラル MIDI モード･オン

F0H　：エクスクルーシブ･ステータス
7EH　：ユニバーサル･ノン･リアルタイム
7FH　：ターゲットデバイスの ID
09H　：サブ ID #1（ジェネラル MIDI メッセージ）
01H　：サブ ID #2（ジェネラル MIDI オン）
F7H　：エンド･オブ･エクスクルーシブ

または

F0H　：エクスクルーシブ･ステータス
7EH　：ユニバーサル･ノン･リアルタイム
XnH　：X は無視、n は 0 ～ F を受信
09H　：サブ ID #1（ジェネラル MIDI メッセージ）
01H　：サブ ID #2（ジェネラル MIDI オン）
F7H　：エンド･オブ･エクスクルーシブ

※ オンを受信することにより、MIDI がリセットされて初期状態になります。このメッセージの実行には、約50msec かかるため、次のメッセージとの間隔を注意してください。

8. システム･エクスクルーシブ･メッセージ（XG 規格）

1) XG ネイティブ・パラメーター・チェンジ

[F0H]→[43H]→[1nH]→[4CH]→[hhH]→[mmH]→[ℓℓH]→[ddH]→……→[F7H]

F0H　：エクスクルーシブ･ステータス
43H　：ヤマハ
1nH　：n ＝送信時は常に 0、受信時は 0 ～ F
4CH　：XG モデル ID
hhH　：アドレス High
mmH　：アドレス Mid
ℓℓH　：アドレス Low
ddH　：データ
¦　　：¦
F7H　：エンド･オブ･エクスクルーシブ

※ データサイズはパラメーターのサイズに一致する必要があります。
※ XGシステム･オンを受信することにより、MIDI がリセットされて初期状態になります。このメッセージの実行には､約50msec かかるため､次のメッセージとの間隔を注意してください。

2) バルクダンプ（受信のみ）

[F0H]→[43H]→[0nH]→[4CH]→[aaH]→[bbH]→[hhH]→[mmH]→[ℓℓH]→[ddH]→……→[ccH]→[F7H]

F0H　：エクスクルーシブ･ステータス
43H　：ヤマハ
0nH　：n ＝送信時は常に 0、受信時は 0 ～ F
4CH　：XG モデル ID
aaH　：バイト･カウント
bbH　：バイト･カウント
hhH　：アドレス High
mmH　：アドレス Mid
ℓℓH　：アドレス Low
ddH　：データ
¦　　：¦
ccH　：チェック･サム
F7H　：エンド･オブ･エクスクルーシブ

※ XG　システム･オンを受信すると、必要なパラメーター、コントロール･チェンジ等をリセットし、初期状態になります。このメッセージの実行には、約50msec かかるため、次のメッセージとの間隔を注意してください。
※ XG ネイティブ・パラメーター・チェンジで、データサイズが 2 または 4 のパラメーターは、そのサイズ分のデータを送信します。
※ XG バルクダンプのアドレスおよびバイトカウントは、付表 2 の「MIDIパラメーター･チェンジ表（システム）」を参照してください。付表中トータルサイズで区切られたデータシリーズが一つのバルクになり、そのシリーズの先頭アドレス（00H、00H、00H）のみバルクデータのアドレスとして有効です。

＜付表 2＞
MIDI パラメーター･チェンジ表（システム）

アドレス（H）	サイズ（H）	データ（H）	パラメーター	記述	初期値（H）	
00　00　00	4	020C ～ 05F4	マスター･チューン	-50 ～ +50［セント］	00　04　00　00	※ 020CH 以下の値は -50 セントになります。
01				1st ビット 3 ～ 0→ビット 15 ～ 12	400	05F4H 以上の値は +50 セントになります。
02				2nd ビット 3 ～ 0→ビット 11 ～ 8		
03				3rd ビット 3 ～ 0→ビット 7 ～ 4		
				4th ビット 3 ～ 0→ビット 3 ～ 0		
04	1	00 ～ 7F	マスター･ボリューム	0 ～ 127	7F	
7E		0	XG システム･オン	00 ＝ XG システム･オン		
7F		0	オール･パラメーター･リセット	00 ＝オン（受信のみ）		
トータルサイズ	07					

付録

＜付表 3＞
MIDI パラメーター・チェンジ表（エフェクト 1）
※ リバーブ、コーラス、バリエーション·タイプのナンバーは、エフェクト MIDI マップを参照してください。

アドレス（H）	サイズ（H）	データ（H）	パラメーター	記述	初期値（H）
02 01 00	2	00～7F	リバーブ·タイプ MSB	エフェクト MIDIマップを参照	01（= ホール 1）
		00～7F	リバーブ·タイプ LSB	00：ベーシック·タイプ	00
02 01 40	2	00～7F	バリエーション·タイプMSB	エフェクト MIDI マップ参照	00（= エフェクトなし）
		00～7F	バリエーション·タイプLSB	00：ベーシック·タイプ	00

注意：ここでいうバリエーション·エフェクトとは、本機のパネルのエフェクトに相当します。

＜付表 4＞
MIDI パラメーター・チェンジ表（マルチパート）

アドレス（H）	サイズ（H）	データ（H）	パラメーター	記述	初期値（H）
08 nn 11	1	00～7F	ドライレベル	0～127	7F

＜付表 5＞
エフェクト MIDI マップ（Reverb）

	MSB	LSB
ROOM	02H	10H
HALL1	01H	10H
HALL2	01H	11H
STAGE	03H	10H
OFF	00H	00H

＜付表 6＞
エフェクト MIDI マップ（Effect）

	MSB	LSB
CHORUS	42H	10H
PHASER	48H	10H
TREMOLO	46H	10H
ROTARY SP	47H	10H
OFF	00H	00H

9. システム·エクスクルーシブ·メッセージ（デジタルピアノ MIDI 準拠）

［F0H］→［43H］→［73H］→［xxH］→［nnH］→［F7H］

F0H ： エクスクルーシブ·ステータス
43H ： ヤマハ
73H ： デジタルピアノ
01H ： 機種 ID（デジタルピアノ共通）
xxH ： サブステータス

コントロール	nn
内部クロック	02H
外部クロック	03H
バルクデータ	06H（06Hの後にバルクデータが続く）

F7H ： エンド·オブ·エクスクルーシブ

10.システム·エクスクルーシブ·メッセージ（特殊操作子）

［F0H］→［43H］→［73H］→［xxH］→［11H］→［0nH］→［ccH］→［vvH］→［F7H］

F0H ： エクスクルーシブ·ステータス
43H ： ヤマハ
73H ： デジタルピアノ
7FH ： 拡張機種 ID
4BH ： 機種 ID
11H ： 特殊操作子
0nH ： コントロールMIDIチェンジ（n=特殊操作子チャンネルNo.）
cc ： コントロール No.
vv ： 値
F7H ： エンド·オブ·エクスクルーシブ

コントロール	チャンネル	ccH	vvH
メトロノーム	常に 00H	1BH	00H：オフ
			01H：--
			02H：2/4
			03H：3/4
			04H：4/4
			05H：5/4
			06H：6/4
			7FH：ビートなし
チャンネル·デチューン	Ch：00～0FH	43H（Chごとのデチューン量を設定する）	00H～7FH
ボイス·リザーブ	Ch：00～0FH	45H	00H：リザーブ·オフ
			7FH：オン＊1

＊1 リザーブ·オンの間に受信したボリューム、エクスプレッションは次のキー·オン時から有効になります。通常はリザーブ·オフです。

11.システム·エクスクルーシブ·メッセージ（その他）

［F0H］→［43H］→［1nH］→［27H］→［30H］→［00H］→［00H］→［mmH］→［ℓℓH］→［ccH］→［F7H］

※ マスター・チューニング（XG と後着優先）で、全チャンネルの音程を一度に変えられるメッセージです。

F0H ：エクスクルーシブ·ステータス
43H ：ヤマハ
1nH ：n＝送信時は常に 0、受信時は 0～F
27H ：TG100 の機種 ID
30H ：サブ ID
00H ：
00H ：
mmH ：マスターチューニング MSB
ℓℓH ：マスターチューニング LSB
ccH ：cc はなんでもよい。（7FH 以下）
F7H ：エンド·オブ·エクスクルーシブ

付録

YAMAHA [Digital Piano]

J-8000 MIDIインプリメンテーションチャート

Date: 07-FEB-2005
Version: 1.0

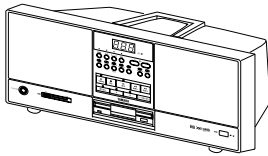
ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1-16チャンネル 1-16チャンネル	1-16チャンネル 1-16チャンネル	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × **************	モード3 × ×	
ノートナンバー	 音域	0-127 **************	0-127 0-127	
ベロシティ	ノートオン ノートオフ	○ 9nH, v= 1-127 ×	○ 9nH,v= 1-127 ×	
アフタータッチ	キー別 チャンネル別	×*1 ×	× ×	
ピッチベンダー		×	○0-24	
コントロールチェンジ	0, 32	○	○	バンクセレクト
	1	×*1	○	モジュレーション
	7	○	○	ボリューム
	10	×*1	○	パンポット
	11	×*1	○	エクスプレッション
	6, 38	×*1	○	データエントリー
	64, 66, 67	○	○	
	84	×*1	○	ポルタメントコントロール
	91, 94	○	○	エフェクトデプス
	96-97	×*1	○	RPN Inc, Dec
	100-101	×*1	○	RPN LSB, MSB
プログラムチェンジ	設定可能範囲	○ 0-127 **************	○ 0-127	
システムエクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム	クロック コマンド	○ ○	○ ○	
その他	オールサウンドオフ リセットオールコントロール ローカルオン／オフ オールノートオフ アクティブセンシング リセット	○ ○ × ○ ○ ×	○ (120,126,127) ○ (121) ○ (122) ○ (123-125) ○ ×	
備考		*1 これらのコントロールチェンジはパネル操作によって送信されないが、Song演奏中に送信されることがある。		

モード1：オムニオン、ポリ　　モード2：オムニオン、モノ
モード3：オムニオフ、ポリ　　モード4：オムニオフ、モノ

○：あり
×：なし

別売品のご紹介

ヘッドフォン　HPE-150

ミュージック データ プレーヤー MDP10（「伴奏君」）

スピーカー一体型のミュージックデータ再生専用モジュールです。幅広い種類のディスクソフトを簡単操作で再生できます。この楽器と組み合わせて、ソフトを再生しながらのアンサンブル演奏や練習もできます。

USB-MIDI インターフェース UX16

USB パソコンと MIDI 機器を簡単に接続できる USB-MIDI インターフェースです。

付録

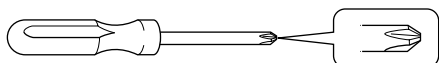
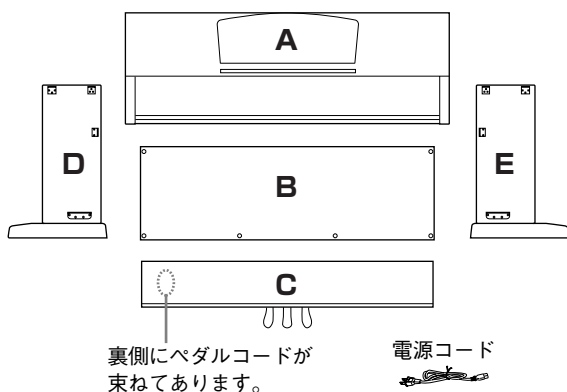
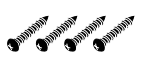
仕様

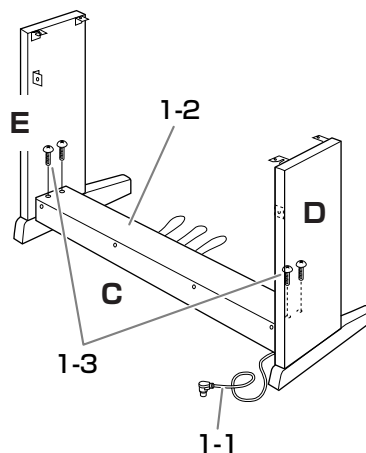
鍵盤	88 鍵（A-1 ～ C7）
音源	AWM ステレオサンプリング
最大同時発音数	64
音色数	10
効果	リバーブ
ボリューム	マスターボリューム
コントロール	デュアル、メトロノーム、トランスポーズ
ペダル	ダンパー、ソステヌート、ソフト
デモ	各音色デモ曲、ピアノ曲 50 曲
録音機能	1 曲録音可能　65KB（約 11,000 音符）
コンピューターからのソング データ読み込み	最大 10 ソング 最大容量合計で 352KB
付属端子	MIDI 端子 (IN/OUT)、PHONES（ヘッドフォン）端子× 2
メインアンプ	20W × 2
スピーカー	楕円（12cm × 6cm) × 2
定格電源	100V, 50/60Hz
消費電力	37W
寸法［間口×奥行き×高さ］ (　) 内は譜面立てを立てた場合	1357mm × 420mm × 819mm (1357mm × 420mm × 973mm)
装備	キーカバー、譜面立て
質量	41kg
付属品	取扱説明書（本書)、ピアノで弾く名曲 50 選（楽譜集)、 クイックオペレーションガイド、ヘッドフォン、専用イス、保証書、 ヘッドフォンハンガーセット、ネジセット、鍵盤用布カバー

・仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

J-8000 の組み立て方

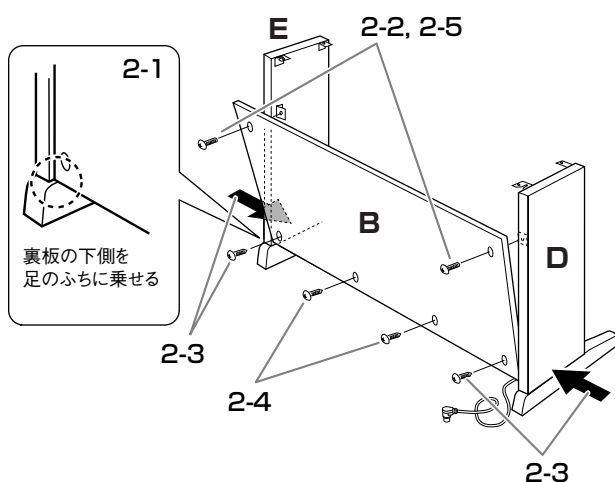
・部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
・組み立ては、必ず 2 人以上で行なってください。
・付属のネジ以外のネジ、または指定されたサイズ以外のネジは使用しないでください。
　サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
・ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
・解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

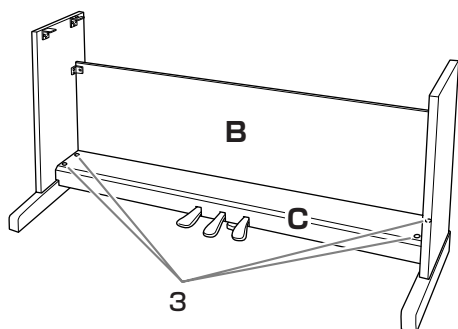
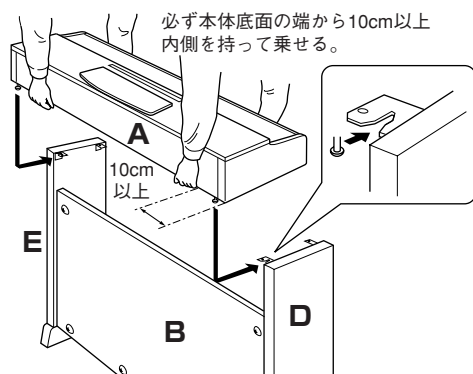
プラス（＋）のドライバーを用意してください。

すべての部品を取り出し、部品がそろっているか確かめてください。

1　D と E に C を仮留めする。

1-1　ペダルコードをほどきます。
　外したビニールひもは、手順 6 で使用します。
1-2　C の両端に D と E を合わせて置きます。
1-3　長いネジ（6 × 20mm）で仮留めします。

2　B を固定する。

モデルによっては、B の裏表で色が違う場合があります。
この場合は、演奏者側から見たときに B の色と D、E の色が同じになる向きで、B を取り付けます。

2-1　B の下側を足のふちにのせてから、上側をはめます。
2-2　上側を、細いネジ（4 × 12mm）で仮留めします。
2-3　D と E の下部を左右から押しながら、下側の左右を、先のとがったネジ（4 × 20mm）で固定します。
2-4　下側の残り 2ヵ所を先のとがったネジ（4 × 20mm）で固定します。

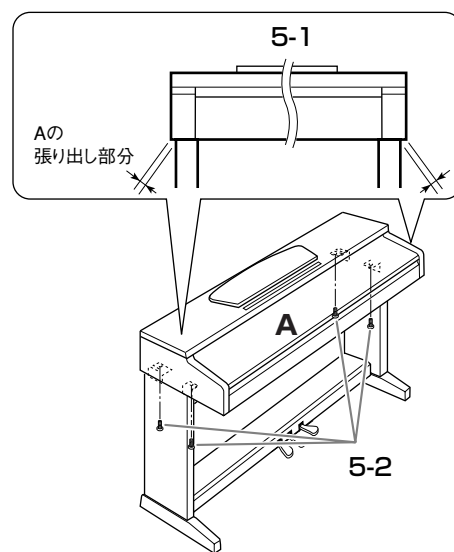
2-5 仮留めした上側のネジ（手順 2-2）をきつく締め直します。

3 Cを締め直す。

C を仮留めしたネジ（手順 1-3）をきつく締め直します。

4 Aを乗せる。

指をはさんだり、本体を落としたりしないよう、十分ご注意ください。

指定した位置以外を持たないでください。

5 Aを固定する。

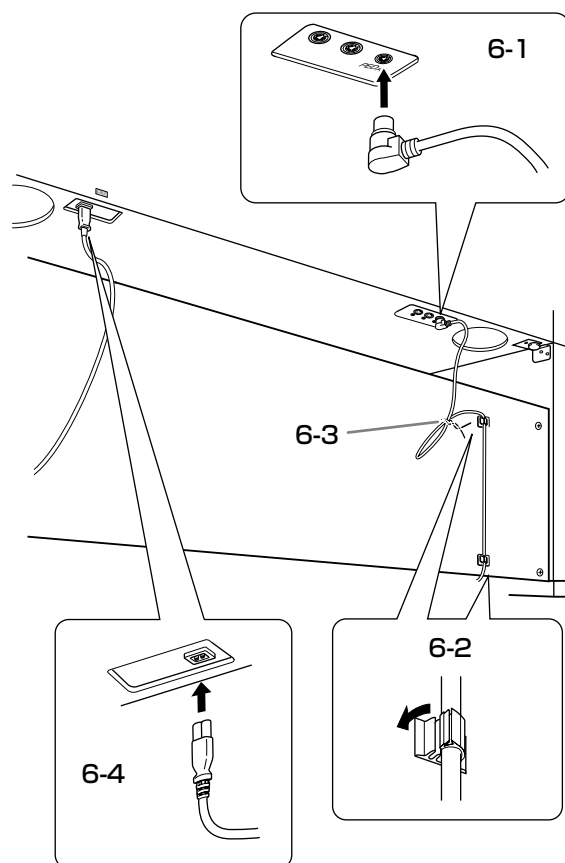
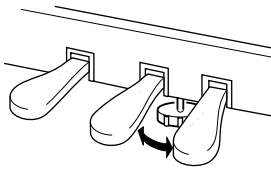
5-1 前面から見て、A の張り出し部分が左右均等になるように調整します。

5-2 前面から、短いネジ（6× 16mm）で固定します。

6 ペダルコードと電源コードを接続する。

6-1 ペダルコードのプラグを背面からペダル端子に差し込みます。

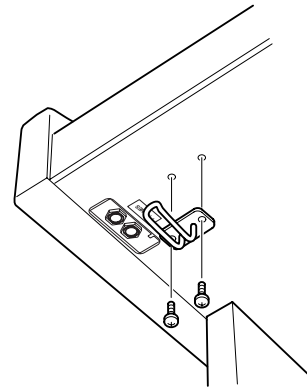
6-2 コードホルダーを貼り付け、ペダルコードを固定します。

6-3 ペダルコードを、ビニールひもで束ねます。

6-4 電源コードのプラグを背面から差し込みます。

7 アジャスターを回す。

アジャスターを回して、床にぴったりつける。

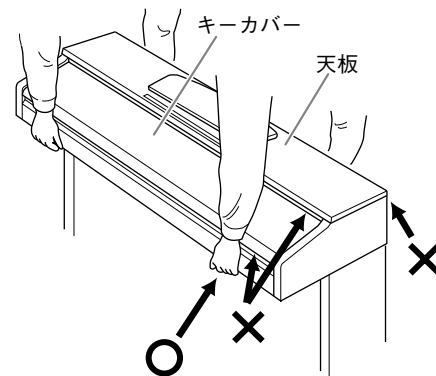
8 ヘッドフォンハンガーを固定する。

付属のネジ（4 × 10mm）2 本で、図のように取り付ける。

付録

■組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
  →組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどがこの楽器にあたりませんか？
  →この楽器を移動してください。
- この楽器がぐらぐらしませんか？
  →ネジを確実に締めてください。
- ペダルを踏むと、ペダルボックスがガタガタしませんか？
  →アジャスターを回して床にぴったりつけてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
  →確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

組み立て後、本体を移動するときは、必ず本体の底面を持ってください。

天井やキーカバーを持たないでください。本体が破損したり、お客様がけがをしたりする原因になります。

索引

・この取扱説明書の全体の流れを見たい場合は、「目次」（P7）をご覧ください

・「*」印はそのページの“欄外注”に説明があることを示しています。

数字・ABC 順

あいうえお順

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

付録

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

●保証書

本機には保証書がついています。
保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

お買い上げ日から1年間です。

●保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。
下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例
ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

●補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

●修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。
それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

●製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

■ヤマハ電気音響製品サービス拠点

（修理受付および修理品お持込み窓口）

◆修理のご依頼 / 修理についてのご相談窓口

ヤマハ電気音響製品修理受付センター
受付時間　月曜日～金曜日　9:00 ～ 19:00、
土曜日　9:00 ～ 17:30
（祝祭日および弊社休業日を除く）
ナビダイヤル　（全国共通番号）0570-012-808
※ 一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。
FAX　(053)463-1127

◆修理品お持込み窓口

受付時間　月曜日～金曜日　9:00 ～ 17:45
（祝祭日および弊社休業日を除く）
* お電話は、電気音響製品修理受付センターでお受けします。

北海道サービスステーション
〒064-8543
札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
FAX　(011)512-6109

首都圏サービスセンター
〒143-0006
東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX　(03)5762-2125

浜松サービスステーション
〒435-0016
浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
FAX　(053)462-9244

名古屋サービスセンター
〒454-0058
名古屋市中川区玉川町2丁目1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX　(052)652-0043

大阪サービスセンター
〒564-0052
吹田市広芝町10-28 オーク江坂ビルディング2F
FAX　(06)6330-5535

九州サービスステーション
〒812-8508
福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX　(092)472-2137

* 名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

付録

ヤマハ株式会社

デジタルピアノに関するお問い合わせ窓口

クラビノーバ・ポータブル楽器 インフォメーションセンター
〒430-8650　静岡県浜松市中沢町10-1　TEL. 053-460-5272
● 受付日　月曜日～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
● 受付時間　10:30～19:00
http://www.yamaha.co.jp/supportandservice/

国内楽器営業本部
鍵盤統括部　企画推進室
〒108-8568　東京都港区高輪2-17-11　TEL (03) 5488-5443

PA・DMI事業部
営業部 CL・PK営業課
〒430-8650　静岡県浜松市中沢町10-1　TEL (053) 460-3275

インターネットホームページのご案内

製品等に関する情報をホームページ上でご案内しております。
ご参照ください。

- **ヤマハ株式会社のホームページ**
  http://www.yamaha.co.jp/
- **電子ピアノ/キーボードのホームページ**
  http://www.yamaha.co.jp/product/epiano-keyboard/
- **ヤマハマニュアルライブラリー**
  http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/
- **あなたの音楽生活をフルサポート**
  ミュージックイークラブ　http://www.music-eclub.com/
- **よくあるご質問(Q&A/FAQ)**
  http://www.yamaha.co.jp/supportandservice/

※名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

U.R.G., Pro Audio & Digital Musical Instrument Division, Yamaha Corporation

WF08130　506AP???.?-01A1
Printed in ?????